

汚れなき抱擁 (1960)

IL BELL' ANTONIO

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 イタリア／フランス

色彩 B&W

時間 101分

初公開日 1966/12/30

公開情報 東和=A T G

【解説】

〈睫毛の長い〉美男子のアントニオはローマ遊学から帰り、親の薦めるままに公証人の娘バルバラ（カルディナーレ）との結婚を決めた。ドン・ファンは彼は真実の恋を模索していたが、天使のように可憐な彼女にこそそれを見つけ得たのである。けれど、挙式から一年近く経っても、バルバラは生娘のまま、小さな町はその噂で持ちきりになる。“アントニオは不能”との評判に、精力家の元連邦官の父はこれ見よがしに売春宿に通ってみせ、結局は腹上死してしまう。そんな父親の影響下に育ったアントニオは、淫売には拒絶反応が出て、逆に、会う素人女すべてを愛おしく思ったーと、友人に昔を回想する。それが何時の間にか、本心から好きな女には“穢したくない”という気持ちが強く働いて、手出しのできない体質になっていた。バルバラは破局の後、すぐに大資産家の公爵のもとに嫁いだ。そして、アントニオが若い女中のサントウツァに“お手つき”をしていたことが、彼女の妊娠で分かった。彼が不能でないことを証明でき、母は大喜びで彼らの結婚をふれまわったが、アントニオは物憂げに沈んで、堪え切れず涙を一筋流すのだった。閉鎖的なシチリアのカタニアを舞台に、愛の純粹さと性の相反する問題を取り上げた、パゾリーニ脚本の異色作。全体に牧歌的な調子で、暗いながらも虚無に至らないボロニーニの演出も真摯であった。

【クレジット】

監督	マウロ・ボロニーニ	Mauro Bolognini	
製作	アルフレード・ビニ チノ・デル・デュカ	Alfredo Bini Cino Del Duca	
原作	ヴィタリアーノ・ブランカーティ	Vitaliano Brancati	
脚本	ピエル・パオロ・パゾリーニ ジーノ・ヴィセンティーニ	Pier Paolo Pasolini Gino Visentini	
撮影	アルマンド・ナンヌッツィ	Armando Nannuzzi	
編集	ニーノ・バラーリ	Nino Baragli	
音楽	ピエロ・ピッチオーニ	Piero Piccioni	
出演	マルチェロ・マストロヤンニ クラウディア・カルディナーレ ピエール・ブラッスール リナ・モレリ トーマス・ミリアン	Marcello Mastroianni Claudia Cardinale Pierre Brasseur Rina Morelli Tomas Milian	アントニオ・マナーノ バーバラ・パグリシ アルフィオ・マナーノ ロザリア・マナーノ エドアルド